# あなたも直売やりませんか？

能代市二ツ井町駒形

## 堀内　直富久（なおふく）さん

きみまち杉ちょくんの設立当初から直売活動を行い、今年で直売歴7年目を迎える堀内さん。現在30種類以上を栽培し、年間を通して出荷を行っています。「自分の箱が空になっている時が一番嬉しいですね！また、お客さんには安心して食べてもらいたいので、減農薬にこだわっています。」と堀内さん。休みの日は他直売所の品揃えなどを確認するなど、新たな直売品出荷に向け、研究を怠りません。

### ■商品紹介（季節等により価格は変動します。）

①小豆（大納言）　250円/300ｇ　②黒豆　250円/300g
③山うど（箱入り）　1500円/1箱　④雪中キャベツ　220円/1玉

### ■店舗紹介（きみまち杉ちょくん）

二ツ井地区特産の山ウド（12月～4月）漬物用の小ナス（6月～10月）をはじめ、その他の野菜、山菜、椎茸、加工品など、会員が真心込めて作った新鮮野菜や加工品が店頭にずらりと並びます。　お問い合わせ先：0185-73-6610

## あなたもチャレンジ！

# 家庭菜園

今月のテーマ ▶▶▶

## 春まきの新作物に周年自給できるパセリを

ヨーロッパ原産で紀元前からハーブに用いられていたパセリ、日本には18世紀にオランダから渡来したのでオランダゼリの和名があります。

通常店頭に並んでいるのは葉の縮れの多い縮葉種（カーリーパセリ）ですが、近ごろは縮れていない平葉種（イタリアンパセリ）も多く見掛けられるようになってきました。代表的な品種には、縮葉種では「パラマウント」（縮れた葉に光沢があり、濃い緑がきれい。独特の張りと香りあり）、平葉種では「イタリアンパセリ」（香りや味に癖がなく、爽やかな芳香あり）です。この他に根を食用とする根パセリもありますが、今のところ日本ではほとんど普及が見られません。

パセリを家庭菜園にお薦めしたいのは、育て方がやさしく、1回の使用量が少ないので、プランターや狭い畑でも、春・秋に植えておけば一年中ほぼ自給することができるからです。

**【育て方のポイント】**

まきどきは春3～4月と、秋8～9月の2回です。このころ種をまき、ポリ鉢に鉢上げして育てられた苗が園芸店に出回りますので、本葉5～6枚になった葉色の良い健苗を買い求めます。育ち不足ならかん水代わりに液肥を与え、勢いの回復を図ります。

この苗を、長型のプランターなら3株、菜園なら株間30㎝に植え付けます。その前に元肥として完熟堆肥（またはピートモスなど）を1株当たり2握り、油かすを小さじ1杯、あらかじめ株元に当たるところの土によく混ぜ込んでおきます。過湿を嫌うので、深植えしないよう、また、植え付け後のかん水もあまり多過ぎないよう注意します。

植え付け後2週間目と、その後15～20日ごとに、株の周囲に、1株当たり油かす大さじ2分の1杯、化成肥料2～3つまみほどばらまき、竹べら（または割り箸）で、根を傷めないよう程度に土に混ぜ込みます。夏はプランターなら強光を避ける場所に移し、畑なら畝間に敷きわら（または干し草）を敷き防暑に努め、冬はプランターなら軒下に、畑ならべた掛け資材（割繊維不織布）を覆い防寒を図ります。

害虫のキアゲハは大敵。図のような成虫が飛来し産卵した後必ず幼虫が葉を著しく食害しますので、見つけ次第捕殺しましょう。

本葉が14～15枚以上になったら収穫です。若葉を摘むのではなく、図のように下の方の葉から1～2枚ずつ順次かき取り利用します。春植えは6～10月、秋植えは10～4月と、温暖なほぼ一年中収穫できます。

本葉が14～15枚になったころから収穫できる

下の方の大きい葉から順次かき取る

成虫

加害する幼虫
小さいうちは黒色



蠍座（10・24～11・22）　根拠のないうわさに惑わされるなど、気持ちが揺れやすい暗示。情報収集は信ぴょう性を大切に。読書で気分転換を